（イ） 横書きで使用すること。

中国では宋の時代に経済が発展し、②一大農業生産地となった江南を中心に交易が盛んになった。また景徳鎮などの陶磁器が主力の輸出品となるにしたがい、いままでの陸路では①大量に運べない重量消費財を運ぶため、②ジャンク船などを用いた海運が発達し、江南の港は大いに栄えた。イスラーム世界では、十世紀ごろから③アッバース朝の支配力が落ち、②都であるバグダードがブワイフ朝に侵入されるなどしてバグダード経由の交易路は衰えた。しかし一方で、③ファーティマ朝やアイユーブ朝の首都の②カイロは交易地として繁栄し、紅海を通じた東西の交易は盛んになった。ヨーロッパでは十世紀ごろから、異民族の侵入もおさまり封建社会が安定し、余剰生産物も生まれて商業の復活がおこった。これにより、北海・バルト海を貿易圏とした①ハンザ同盟やイタリアのロンバルディア同盟などの都市の商人が活躍したが、ジェノバやヴェネツィアなどのイタリア商人は十字軍をきっかけとして③海上交易の商圏を広げ、地中海東岸との東方貿易を発展させた。このように、中国・イスラーム・ヨーロッパという三つの交易圏が海運を通じて接触することにより、交易はシルクロード等から、②海に移りまた規模も拡大したのである。

イ 点数
18